

懸虹

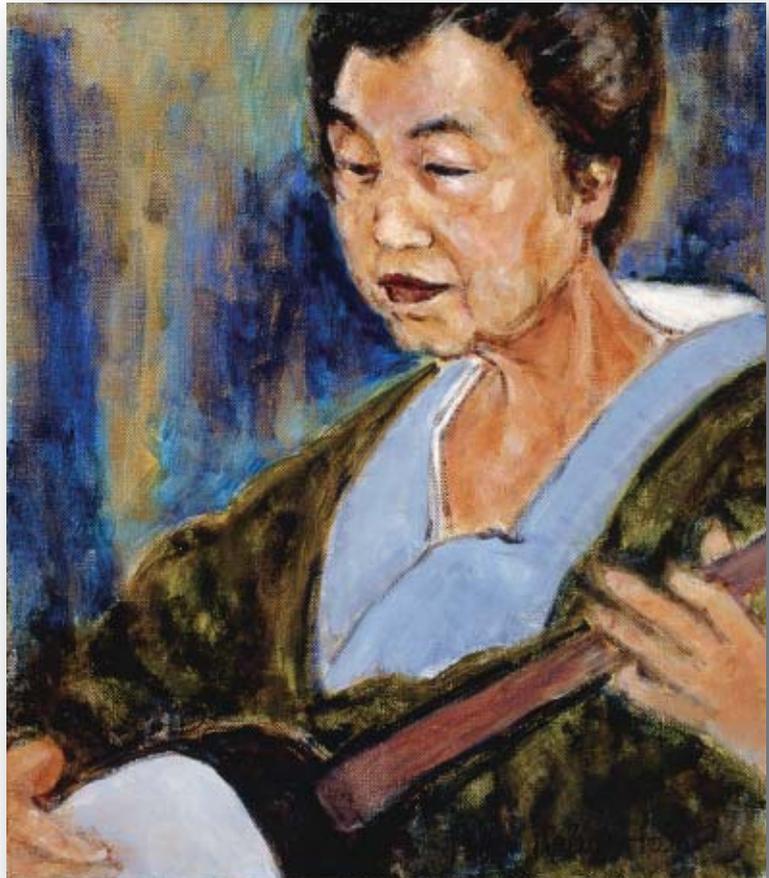
(題字は名誉理事長直筆)



財団法人 星総合病院

新年のご挨拶

新たな幕開けに向けて



小唄のお師匠さん (F10、1987)
名誉理事長 星 一雄

- 新星総合病院工事情報
- 第80回集談会
- 「認定遺伝カウンセラー」・「回復期リハビリテーション看護師」が誕生
- 施設ニュース

【醫】

【靈】

「医療が家族の絆を強める場となる」

年頭の理事長の言葉の中にそれはありました。

その前日、一月三日は母の八十五歳の誕生日でした。

昨年二月、二人暮らしが心もとなくなつた母に「認知症」の診断があり、グループホームにお世話になっておりました。3・11の震災の時も、ホームの方々に助けていただき大事には至りませんでした。

それから約十ヶ月、食事や内服の確認のために掛けていた毎日の電話から解放された兄と私はホッとする反面、母の笑顔を見る機会は減っていきました。

今回十二月三十日から一月三日まで兄宅にお正月外泊をしていた母は、ホームへの帰院直後に誕生パーティーを開いていただきました。手作りのケーキと兄家族と一緒に撮った写真の入ったフォトスタンドのプレゼント、入所のみなさんからの歌など心のこもった会でした。しかし、母にとつては違つていました。「私は騒がしいことは嫌いな」と急に怒り出し、自室に帰ろうとしました。兄はおろおろと狼狽し、「こんな母を見たことがない」と言つて嘆いていました。元気な頃には一度も怒つたことなどない母。せつかくのみなさんの思いを踏み、母の心にあつたのは「さびしさ」だったのではないかと私は思っています。「帰らないで」と母は言いたかつたのだと思います。

兄も私も、自分たちの都合で母との絆を弱めていたのだと思います。

「家族の絆」そのことを真剣に考えていかなければと、反省した年頭でした。

星総合病院 総看護師長 佐藤 美重



旧年中は、格別のご厚誼を賜り、誠にありがとうございました。昨年は、未曾有の大災害とその対応、そして、不安への対応と現在も多く取り組みが続けられています。災害では、多くの関係者の努力と協力により、困難な課題をのりこえることができ、新たな診療体制を構築することもできました。ありがとうございました。今年、星総合病院移転新築工事の完成を迎えます。新星総合病院での精神科診療は地域医療のほか、他科との連携医療（リエゾン）などを進めていきます。その中には、地域の方々の願いと期待に答えて「良質な精神科医療」を提供します。また、当院は、日本医療機能評価機構の受審を迎えます。対策委員会を重ねてきましたが、全職員協力のもと、より高い意識で取り組み、質の高い医療機関つくりに向けて努力しています。今回、厚労省医療計画の対象に精神疾患が取り上げられ、5疾病5事業となります。今後は、国民のニーズに応じた医療連携や地域連携の時代になっていくと思われれます。安全で、地域の皆様のご期待に添えるよう信頼される医療機関を目指していきます。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

理念



三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災や福島第一原発事故による放射線被害など大変な一年でした。星総合病院も被災して危機的な状況になりましたが、職員の素晴らしい団結力で乗り切れたと感じます。どんな時でも患者さんにきちんとした医療を提供するという医療人としての誇りを感じました。

今年はいよいよ新星総合病院の竣工の年です。新病院での診療に向けて三春病院としてはできるだけ協力をしていく所存です。役割分担と連携をキーワードとして、急性期医療を担う星総合病院の後方病院としての診療をしっかりやること。地域の医療機関とのネットワークを築き地域医療の発展に寄与すること。そして、医療と介護の橋渡し役として回復期リハビリを中心とした病院診療の充実を図っていくことを主な目標として財団法人星総合病院の新たな開幕にむけて取り組んでいきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

介護老人保健施設オリオン 施設長 森 慶秋



明けましておめでとうございます。昨年の大震災からの新しい年へ向けての再出発の年です。私どものオリオンでも増床のための仮設工事、更にスプリンクラーの新設と年間を通しての工事が続き利用者の皆様にも大変なご不便をおかけし、ご協力をお願いして来ました。幸いに大きな事故もなく年が越せました。私も例年になく何とか健康に過ごせました。朝の全室の挨拶をしながらの回診から日々の務めを始めています。訪れるお部屋やベットは増えましたが、皆さんの元気な顔を拝して「さあ今日も」との励みとしております。恥ずかしながら「医師のデイケア」をさせて頂いている感覚です。出来ればこのまま現役生活が続けられるように努力します。

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星 光一郎



明けましておめでとうございます。今年がより良い年であってほしいと思います。

論語に「五十にして天命を知る」という言葉があります。昨年、東日本大震災が起こった日は、私の五十歳の誕生日でした。

県民の一人として、東日本大震災並びに東電原発事故からの復旧・復興をめざし、新たな気持ちで一年を全うしたいと思っています。

加えて、四月からは医療報酬並びに介護報酬の同時改定が行われ、障がい者自立支援法の改正もなされる年ですので、更なる医療と福祉の連携協力ができるよう努力したいと思います。今後、我が国における社会保障改革は、「医療（患者）モデル」の政策を「福祉（生活者）モデル」へ転換していくことになります。地域福祉に寄与すべき愛星福祉会としても、新規事業等も視野に入れ検討したいと考えています。

夢や希望が幸せを運んで来る年になりますように、本年もどうぞ宜しくお願いします。

新星総合病院 工事情報



新病院の工事が始まってから10ヶ月が経とうとしています。
現在は病棟および中央診療棟4階部分の柱の配筋工事が行われています。



建物配置

工事のようす



1/17 現場全景



1/25 中央診療棟-3F躯体
(4F床) コンクリート打設



1/25 病棟-4F梁配筋・
床型柱工事

現場ウェブカメラ の映像公開中！

新病院建設現場の様子をリアルタイムでご覧いただけるようライブカメラを設置しています。

【閲覧方法】

- ① 当法人ホームページ (<http://www.hoshipital.or.jp>) にアクセス
- ② 「新星総合病院 建設現場ライブカメラ」のリンクをクリック

建物内部に初潜入 (平成24年1月11日)



中央診療棟 1階



渡り廊下を通過して病棟へ



病棟 1階

コンクリート打設工事を終えた、病棟及び中央診療棟



階段で中央診療棟の3階へ

星総合病院移転新築工事における使用コンクリートの安全性を確認しました

二本松市の建物で高い放射線量が測定された件に関して、星総合病院移転新築工事で使用されている砕石および打設したコンクリートについて調査を実施しました。

- ① 現在問題となっている業者及び計画的避難区域内で採取した砕石等を原料としたコンクリートは一切使用していない。
- ② 生コン業者は、納入した全ての砕石等の放射線量を測定しており、安全性を確認した上でコンクリートに使用している。(全て0.003 μ Sv/h以下)

- ③ 新病院建設現場において、コンクリート打設部分計46地点(中央診療棟22地点、病棟24地点)について線量を測定したところ、最高0.36 μ Sv/h、最低0.08 μ Sv/h、平均0.234 μ Sv/hという値であった。(平成24年1月16日現在)

※なおこの数値は、純粋なコンクリート打設部分の線量ではなく環境放射線量を含む値です。

以上の結果から、新病院建設地で使用されているコンクリートについて安全性が確認されたことをご報告致します。



地上15m、診療棟3階床のスラブ配筋工事の様子。奥に見えるのは、現在の星総合病院の看板です。

今後の予定

2月からは、病棟・中央診療棟ともに1階部分のLGS(軽量鉄骨の壁)間仕切工事がスタートします。コンクリートが打ちつけられただけの内部に、部屋や仕切りができ、新しい空間が生まれます。

「サービス棟」及び「リハビリ・保育施設棟」は、今年の6月頃の着工を目指し、図面作成が行われています。

第80回集談会

平成23年11月24日 郡山ビューホテルアネックス

当法人では、職員や地域医療機関の先生方が最新医療を学ぶ場として、年2回「集談会」を開催しています。職員8名の研究発表に続き、原発事故で避難民となり現在星ヶ丘病院に勤務する堀川章仁先生による「3.12原発事故による避難民の一人として」と題した講演も行われました。

特別講演では、講師に福島県立医科大学医学部神経内科学講座の宇川義一教授をお招きし、「神経診察の基礎」をテーマにご講演いただきました。

職員をはじめ、連携医など計288名が参加、活発な質疑応答が行われ、有意義な研修の場となりました。



宇川教授による特別講演のようす

《一般演題》 総司会 診療部 阿部 利明

◎座長 看護部 黒田 義三

1. 人工関節置換術後に発生した褥瘡に対する1考察
2. 職員が考える緩和ケア
— 終末期医療に関する調査から —
3. 乳がん検診啓発活動に参加して —アンケート調査から—
4. QOLを追求した紙おむつの種類及びあて方の検討
— 一般科及び精神科での成果と問題点 —

星総合病院 褥瘡対策チーム	内藤 久江
星総合病院 緩和ケア委員会	滝澤 礼子
星総合病院 乳がん看護認定看護師	藤田 由紀
星ヶ丘病院 A-3病棟	菅野 紀子

◎座長 診療部 氏家 勇一

5. みはる散策マップ作製に向けた取り組み
6. 回復期リハビリテーション病棟における質の評価の検討
7. 放射線科における震災後の取り組みと新病院構想

町立三春病院 リハビリテーション科	大柄 亨
町立三春病院 リハビリテーション科	二瓶 健司
星総合病院 放射線科	続橋 順市

◎座長 診療部 鈴木 茂憲

8. 特発性冠動脈解離により急性心筋梗塞を発症した一例

星総合病院 循環器内科	清水 竹史
星ヶ丘病院 内科	堀川 章仁

【特別報告】3.12原発事故による避難民の一人として

(※3.12原発事故当時、富岡町の夜の森中央病院に勤務)

《特別講演》 座長 神経内科 石原 哲也

演題 「神経診察の基礎」

福島県立医科大学 医学部 神経内科学講座 教授 宇川 義一 先生

「認定遺伝カウンセラー」・ 「回復期リハビリテーション看護師」が誕生

星総合病院の看護師赤間孝典さんが県内で初となる「認定遺伝カウンセラー」の資格を、また町立三春病院の看護師佐久間直美さんが、「回復期リハビリテーション看護師」の資格を取得しました。

「認定遺伝カウンセラー」(日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会認定)



星総合病院
認定遺伝カウンセラー
看護師
赤間孝典さん

①「認定遺伝カウンセラー」はどのような役割を担っているのですか？

認定遺伝カウンセラーは、名称から心理カウンセリングの専門家と思われがちですが、遺伝医療の専門家です。確定診断のための遺伝学的検査、お薬の反応に関係する個体差の診断、がんや高血圧、糖尿病といった多因子遺伝性疾患中に含まれる稀少疾患の診断などをサポート・コーディネートし、患者だけでなく、罹患していない血縁者を含む家族全体へのオーダーメイド医療(個々人の体質に合わせた健康管理の提供)の実現を促進させる役割を担っています。

②今後の抱負を一言お願いします

近年、全国の国公立大学病院を中心に遺伝医療部門が立ちあげられていますが、東北地方ではまだ全診療科に対応できる遺伝医療体制は整っていません。「遺伝カウンセリング」は昨年日本医学会のガイドラインに示されたことで、医師として必要な技術の一つになると思います。胎児・小児・成人の幅広い領域にまたがって医師や他の医療職の協力を得て、東北地方の医療の質向上のために貢献できればと思います。

「回復期リハビリテーション看護師」(全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会認定)



町立三春病院
回復期リハビリテーション看護師
副主任看護師
佐久間直美さん

①「回復期リハビリテーション看護師」はどのような役割を担っているのですか？

回復期リハビリテーション病棟は、多職種協働の現場です。全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会主催による「回復期リハビリテーション看護師」は、患者さんのADL能力の向上により寝たきりの防止と在宅復帰を目的とし看護の専門性を発揮し、チームアプローチを実践することが求められます。

②今後の抱負を一言お願いします

回復期リハビリテーション病棟の看護師としての役割は、患者さんが安心して社会生活できるように働きかけることです。そのためには、入院中に行えるADL能力の向上と、身体能力を知り安全に生活できる能力を養ってもらうことが大切となります。患者さんの精神的支えとなり、生活の再構築ができる看護を実践できる看護師になりたいと思います。

がん患者さん用のカツラやケア帽子 希望される患者さんに提供します

星総合病院では、「One Worldプロジェクト」よりカツラや帽子、パッドなどを提供いただき、希望される患者さんに無料でお渡ししております。

「One Worldプロジェクト」は、東日本大震災の被災地の患者さんにカツラや帽子、下着などを届けようと、全国から寄せられた支援物資を東北の病院に送る活動を行っている全国組織です。星総合病院でも多数の支援物資をお送りいただきました。

ご希望される方は、外来受診の際に看護師までお申し出下さい。



心のこもったお手紙と一緒に届けられた
カツラ、帽子、パッド等

施設ニュース

パート①

星総合病院

入院中のお子さんに クリスマスプレゼント

平成23年
12月22日

職員がサンタとトナカイに扮し、入院中のお子さんの病室を訪問し、クリスマスプレゼントを贈りました。サンタと握手したり一緒に写真撮影も行いました。

なおプレゼントは、福島県骨髄バンク推進連絡協議会の皆様より寄贈いただいたものです。(写真下)

どうもありがとうございました。



懸虹NO.272より、「施設ニュース」の枠について、各施設のカラーを定めました。

(法人：紫、星総合病院：緑、星ヶ丘病院：青、三春病院：薄ピンク、オリオン：オレンジ、敬老園：濃ピンク、ポラリス：黄緑)

星ヶ丘病院

あさか開成高校音楽部 クリスマスアンサンブル コンサート2011

平成23年
12月17日

音楽部の皆さんは赤い帽子をかぶってクリスマスの雰囲気を出し、合唱や器楽のアンサンブル演奏で「きよしこの夜」「サンタが街にやってくる」などのクリスマスソングメドレーを披露してくれました。会場に集まった患者さんやご家族など約120名は、高校生の元気で美しいハーモニーを楽しんでいらっしゃいました。



三春町立三春病院

クリスマス会

平成23年12月17日

地元小学生や婦人会の皆様がダンスや歌を披露してくださいました。また、三春病院の白岩理先生が、雷クリニック院長の雷毅先生及び友人の石井修一様とギターを弾き語りを行いました。患者さんご家族及び隣接する三春町敬老園入所者の方々が集まり、楽しいひと時となりました。



介護老人保健施設オリオン

クリスマス会

平成23年12月20日

職員が扮したサンタとトナカイがソリにのって登場しご挨拶。利用者の皆さんはとんがり帽子をかぶり、「ジングルベル」の音楽に合わせて上手に鈴を演奏したり「赤鼻のトナカイ」を合唱し、賑やかなクリスマス会となりました。職員による合唱・器楽演奏も行われました。



ポラリス保健看護学院

郡山市エイズ予防ポスターコンクール 最優秀賞受賞

郡山市内の各学校からの応募総数69作品の中で、ポラリス1年生の船木結以さんが見事最優秀賞を受賞しました。

その他、1年生4名が優秀賞を受賞しています。おめでとうございます。



養護老人ホーム三春町敬老園

クリスマス・忘年会 平成23年12月17日

クリスマス会と忘年会を兼ねた、「クリスマス・忘年会」を行いました。入園者の皆さんと共に、平成23年の10大ニュースを振り返りました。1位は、「3.11東日本大震災」の話題でした。



施設ニュース

パート②

星総合病院・町立三春病院 年越し蕎麦振る舞い(平成23年12月31日)

毎年恒例となった、「年越し蕎麦振る舞い」を行いました。

患者さんやお見舞いにいらしたご家族の方に、心温まる年越しを迎えていただきたいとの思いで職員が蕎麦を振る舞いました。星総合病院60食、三春病院では20食を振る舞い、ご好評いただきました。



「みはる散策マップ」作製

三春町立三春病院では、平成20年10月より回復期リハビリテーション病棟を開設し、脳卒中や骨折などで入院された患者さんのリハビリテーションを行っております。

この度、患者さんが退院後も安心して杖や車椅子を使用し外出するきっかけ作りとなるよう、三春町の町づくりを調査し「みはる散策マップ」を作製しました。中心市街地の史跡や食事処などを掲載しています。

みはる散策マップは三春病院受付で配布致します。なお、三春病院ホームページ上からもダウンロードできます。是非マップを手にして外に出向いてみてはいかがでしょうか。



<調査項目>

設置の有無：駐車場、障害者用トイレ、AED
その他：杖使用可、車椅子使用可、シルバーカー使用可

【お問い合わせ TEL：0247-62-3131】



財団法人 **星総合病院**

HP <http://www.hoshipital.or.jp>

●星総合病院

〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3711

●星訪問看護ステーション

〒963-8813 福島県郡山市芳賀1-16-1
TEL 024-956-2322

●星総合病院 在宅介護支援センター

〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3818

●星総合病院保育所

〒963-8001 福島県郡山市大町二丁目12-13
宝栄郡山ビル202号
TEL 024-923-5550

●星ヶ丘病院

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411

●星ヶ丘訪問看護ステーション

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-962-1711

●居宅介護支援事業所星ヶ丘

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6414

●星ヶ丘保育園

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号
TEL 024-951-0788

●介護老人保健施設オリオン

〒963-0211 福島県郡山市片平町字峯三天2番地
TEL 024-952-6413

●三春町立三春病院(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升時50
TEL 0247-62-3131

●養護老人ホーム三春町敬老園(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升時50番地の1
TEL 0247-62-3618

●ボラリス保健看護学院

〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字金堀田4番地
TEL 024-922-9105

●芳賀・小原田地域包括支援センター

〒963-8813 福島県郡山市芳賀1-16-1
TEL 024-941-1121

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.hoshipital.or.jp>

発行／財団法人星総合病院

編集／「懸虹」編集委員会

発行日／平成24年1月25日

住所／〒963-8501

郡山市大町2丁目1-16

編集後記

明けましておめでとうござい
ます。昨年は大震災を経験
し、復興への道のりは今振り返
るとあっといふ間の、しかしこ
れまでにない密度の濃い一年
でした。

建物の損壊により職員の働
く環境も一変しかし職員以上
に戸惑ったのは患者さんだっ
たと思います。入口や外来はこ
れまでと全く異なる場所とな
り、また、プレハブの仮設診療
棟内は、車椅子が通る事も考え
待合椅子の数も限られてしま
うため、立ったまま診察の順番
待ちをする患者さんで毎日い
っぱいです。このような環境の
中であって、震災前と同様の患
者さん達にご利用いただき、感
謝するばかりです。今提供でき
る医療、それに付随する最高の
サービスを提供しなければなら
ないのと改めて感じています。

今年はいよいよ新星総合病
院が竣工を迎える年です。この
懸虹でも、工事の進捗等につい
てご紹介し、面白い話題を沢山
掲載して参りたいと思ってい
ます。

本年もどうぞ宜しくお願い
申し上げます。

広報担当 菅野